

「昭和初期における子供洋服」

— 雑誌『主婦之友』より —

Studying Western-style-of-dress children's clothes in the early Showa era

— Magazine “Shufunotomo” —

村田裕子

Hiroko Murata

キーワード：子供服、洋裁、昭和初期

Keyword : children's clothes, dressmaking, early Showa era

要旨

日本の衣服が和服中心であった時代から洋服中心の時代へと変わっていく中で、一般家庭で洋装が広まっていった様子を、『主婦之友』に掲載された子供服で考察していく。大正6年6月に創刊された『主婦之友』では、読者が家庭で洋服を製作することができるように洋服の作り方を掲載している。昭和に入ってから、洋服作りに必要な知識として部分縫いや子供服の配色方法、地伸しの仕方、洗濯の方法などが詳しく説明されるようになる。昭和6年から雑誌の付録に実物大の洋服型紙がつくようになり、型紙作りが苦手な人でも裁断ができるように工夫される。昭和7年からは「夏の子供服の仕立方」を掲載した別冊の付録がつくようになり、洋装子供服が広がっている様子が窺える。一方大正6年に創設された代理部という通信販売の事業部では家庭の実用品が販売されている。そこでは洋服や洋服作りに必要な型紙や布地、洋裁道具、ミシンなども販売され、読者が購入して洋服を製作していたと考えられる。そこで、代理部の重要取扱品案内で当時販売され、記事で仕立方が掲載された子供服の中から通学服とワンピースの2体について再現を試み当時の子供洋服を考察した。また、『主婦之友』では子供洋服についての座談会が開かれ、その記録が掲載されている。経済的、体育上、スタイルの上から、洋服の長所や当時の子供服の問題点などが話し合わせ、日本人にあった洋服作りが目指されている。

I. はじめに

明治時代の洋服は、宮中や上流階級などの一部の特権階級の装いにすぎなかったが、明治後半から活動的な衣服の改良が唱えられはじめる。大正時代になると家庭生活の合理化や欧米化に向けて「生活改善運動」の一環として「服装改善運動」が行われ一般家庭での洋装化

が勧められた。また、第一次世界大戦後はデモクラシーが高まり、子供洋服に対しても子供の身体を束縛せず、子供の発育に適した子供のためのデザインが考えられはじめるようになった。洋服が一般化していくまで、人々は和装と洋装の二重生活をしていくことになるが、一般家庭で洋装が広まっていく様子を、前報に続いて子供服で考察していく。今回は大正期について調査を行ったが¹⁾、本研究では国内の戦時色が濃くなり、服装の制限を受ける以前の昭和初期（昭和10年まで）を調査期間とし、当時の雑誌の中で、実用的な家庭生活情報を中心として編集された大正6年に創刊された『主婦之友』から、記事や付録で仕立方が掲載され、代理部の重要取扱品案内で販売された子供服について検討する²⁾。なお、子供服は赤ちゃん用は除き15才までを調査対象とした。

服装については、経済的かつ能率的な洋装化が唱えられても、製作方法も着方も一般的に知られていなかった。そこで、家庭において洋服を普及させるには洋裁に対する知識と裁縫技術を習得し、簡単に軽便に、安価に仕立てられるようにしなければならないと考えられた。当時の婦人雑誌には、洋服を着ることが初めての人や、慣れていない人々の為に、下着の種類や付け方、洋服の着方の説明が挿絵や写真なども使ってわかりやすく掲載されている。

II. 代理部の重要取扱品案内で販売された子供洋服

主婦の友社代理部の創設については大正6年10月に、社告として主婦の友社代理部の創設を公表している³⁾。昭和42年に発刊された『主婦の友社の50年』によると、「代理部の歴史と発展の中で昭和初年から戦前までの代理部が扱った商品の中で洋服に関する主な商品を挙げると次のようなものがある。昭和6,7年頃から、付録に発表のものを取り次ぎ、婦人服、子供服、コート、コルセット、スリッパの類も多く扱うようになった。また、婦人事務服、婦人仕事着、割烹着なども扱い、14年には「主婦之友」の公募で当選した婦人改良着も売り出した。純毛や純綿のものは、事変が進んだ昭和13年末ごろから姿を消しはじめたが、麻、正絹は、戦時にはいってもなおしばらく扱われた。また小学生の通学服、防水マントなども、布地の変遷はあったが、代理部の主要商品の一つであった⁴⁾。」とされている。

実際に「主婦之友代理部の重要取扱品案内」という本誌の巻末で販売され、誌上に仕立方が掲載された昭和2年1月号（11巻1号）から昭和10年12月号（19巻12号）までの子供服については表1に示す。「寝冷え知らず」の寝衣は大正時代からつづいており、通学服については、昭和2（大正16）年1月号に「女兒の通学服」が販売される。これは文化裁縫女学校長並木伊三郎によって大正15年3月（10巻3号）に「理想的な女兒通学服の仕立方」として仕立方の記事が掲載された通学服である。また、昭和2年4月号（11巻4号）の代理部の重要取扱品案内では、新しい型の「主婦之友特製 男女小学生の通学服」の販売をはじめとお

り、これも仕立方の記事が前号の昭和2年3月号(11巻3号)に掲載されている。女兒通学服は並木が「校服として最も理想的な新型の女兒通学服一揃の作方」として、男児通学服は三上洋裁学院院長東京家政学院講師の三上勇が「7.8歳男児新型通学服の仕立方」として説明を行っていた通学服である。この後も通学服は新しい形が考案され販売されており、主要商品の一つであったことがわかる。

子供服の仕立方は本誌だけでなく付録の別冊にも掲載されるようになり、その子供服も販売されるようになる。別冊付録の中での子供服については表2～表6に示す。他にも洋服を作るために必要なミシンや布、針、糸、ルレット、釦などの裁縫用具も代理部で販売されるようになり、読者が代理部を通して布や裁縫用具を購入し、洋服作りをしていた様子が窺われる(図1, 図2)。

付録は昭和6年6月号(15巻6号)からつくようになる。洋服の実物大の型紙もつくことがあり、これは型紙作りの面倒さを省き、型紙作りの苦手な人にも洋服作りができるきっかけとなった。そして昭和7年6月号(16巻6号)には「夏の子供服一切の仕立方」として、別冊の付録がついてくる。ここでは洋服のイラストや仕立て方の説明だけではなく、「洋服作りに必要な体の採寸の仕方」や「洋服に必要な基礎的な縫い方の説明」「布地の地直しの方法」「洋服裁縫の便利な道具」などが詳しく紹介され、「洋服の基礎縫いと部分縫いのいろいろ」では、並木伊三郎が洋服に必要な基礎縫い5種として切り襟、千鳥縫、まつり紵、割縫、タックを説明している。また、「持出しと見返しのつけ方」「斜布の作り方」「くるみ釦の上手な作り方」「大切な釦のつけ方いろいろ」「スナップの上手なつけ方」「鉤ホックのつけ方」「孔かがりや門止の綺麗な仕方」「上手なループの作り方」「玉縁の手際よい作り方」「恰好のよいギャダの寄せ方」「スカラップの縫い方」などがある。他にも「洋服裁縫の便利な用具一揃」が紹介されたり、「上手に地伸しをする秘訣」「婦人子供洋服の配色の選び方」「子供洋服の仕上げと畳み方」など洋裁に必要な知識が説明されている。また、デザインの考案者はドレスメーカー女学院の杉野芳子や文化服装女学校の並木伊三郎など日本の洋装文化を築いた著名な人達である。

昭和8年5月号(17巻5号)には「夏の新型子供洋服の作り方」の別冊付録がついている。その中で溝部洋裁女塾溝部百合子は「婦人子供洋服の標準寸法の取り方」「簡単な割出法で男女児服の仕立方」を説明し、日本橋三越婦人子供洋服部中村サエ子は「夏の婦人子供洋服地の上手な地伸しの仕方」「夏の婦人子供洋服の上手な仕上げの仕方」を説明している。他にも並木伊三郎の「洋裁に一番大切な部分縫いと基礎縫ひの秘訣」、杉野芳子の「誰でも知っておきたい子供服婦人服についての一問一答」、早大教授帆足理一郎夫人 帆足みゆきの「一寸した手間で見違える子供洋服の上手な洗濯の仕方」などが掲載されている。

昭和9年6月号(18巻6号)には「新型流行夏の婦人子供服の作方」、昭和10年6月号

表1.「主婦之友代理部の重要取扱品案内」で販売され誌上に仕立方が掲載された子供服
11巻1号～19巻12号 (S2.1～S10.12)

(「主婦之友代理部の重要取扱品案内」は、15巻10号 (S6.10) から「主婦之友社代理部案内」へと名称が変更される。)

で困んだ子供服の再現を行った

代理部での販売名	代理部掲載期間	誌上の記事タイトル	掲載巻号	著者	
女兒用の通学服	11巻1号～11巻2号、(T16.1)～(S2.2)	理想的な女兒用通学服の仕立方	10巻3号 (T18.3)	文化裁縫女学校長 並木伊三郎	①
主婦の友特製 男女小学生の通学服	11巻4号～11巻5号、(S2.4)～(S2.5)	校服として最も理想的な 新型の女兒通学服一揃の作方	11巻3号 (S2.3)	文化裁縫女学校長 並木伊三郎	②
		7, 8歳男児新型通学服の仕立方	11巻3号 (S2.3)	三上洋政学院院長 東京家政学院講師 三上勇	③
特製女兒通学服	12巻1号～12巻3号、13巻4号、(S3.1)～(S3.3)(S4.4)	秋から冬向の通学服に相応しい 十三四歳用女兒セーラの仕立方	10巻10号 (T15.10)	文化裁縫女学校長 並木伊三郎	④
		理想的な女兒用通学服の仕立方 (前掲に同じ)	10巻3号 (T15.3)	文化裁縫女学校長 並木伊三郎	
		校服として最も理想的な 新型の女兒通学服一揃の作方 (前掲に同じ)	11巻3号 (S2.3)	文化裁縫女学校長 並木伊三郎	
通学服	10巻3号～10巻4号(S9.3～S9.4)	通学服に相応しい 7.8歳女兒用セーラ服 (口絵写真タイトル「セーラ型的女兒通学服」)	10巻2号 (S9.2)	文化裁縫女学校 二宮信子	⑤
		簡単に仕立てられる 7, 8歳用 新型男児通学服 (口絵写真タイトル「流行の金釦付き男児通学服」)	10巻2号 (S9.2)	溝部洋裁学園 溝部百合子	⑥
お子さま用新型上被	10巻4号～10巻7号、10巻9号～10巻2号、10巻5号(S9.4～S9.7)、(S9.9～S10.2)、(S10.5)	(口絵写真タイトル「一、二年生男女児用上被」)	10巻3号 (S9.3)	濠洲洋裁女学院 濠洲花子	⑦
		5, 6歳用 幼稚園生向の可愛い上被の仕立方 (口絵写真タイトル「幼稚園生用の上被」)	10巻3号 (S9.3)	文化裁縫女学校 中村里海	⑧
寝冷え知らず	11巻1号～11巻3号、11巻5号～11巻7号、11巻9号～11巻12号、12巻3号～12巻10号、(T16.1)～(S2.3)、(S2.5)～(S2.7)、(S2.9)～(S2.12)、(S3.3)～(S3.10)	男女児兼用の便利な寝冷え知らずの仕立方	10巻7号 (T15.7)	婦人記者	⑨
特製 寝冷え知らず	13巻9号～13巻12号 (S4.9)～(S4.12)	コンビネーション兼用の 新案男女用寝冷え知らずの仕立方	13巻6号 (S4.6)	谷口とく子	⑩
極上タオル製 寝冷え知らず (衛生ねまき)	16巻8号～16巻10号、16巻12号～16巻7号、(S7.8～S7.10)(S7.12～S9.7)	男女児両用寝冷え知らずの仕立方 (16巻7号口絵タイトル「男女児兼用新案寝冷え知らず」)	16巻8号 (S7.8月)但し型は7月号の口絵写真10頁で紹介済み	谷口とく子	⑪
男女児兼用の新型寝冷え知らず (衛生的な お子さま寝巻)	18巻8号～18巻11号(S9.8～S9.11)	着ようが衛生的な 男女児両用改良寝巻の仕立方	18巻7号 (S9.7)	文化裁縫女学校 中村里海	⑫
子供用袋マント(通学用袋マント)	11巻8号、12巻5号、(S2.8)、(S3.5)	「着工合がよくて携帯に便利な新案男女児用袋マントの仕立方」	11巻5号 (S2.5)	創案者 天羽司善	⑬
夏の流行婦人・子供服	16巻7号、16巻9号、(S7.7)、(S7.9)	「夏の子供服一切の仕立方」子供服の仕立方の掲載は20種あり	16巻6号(S7.6)別冊附録		⑭
今秋の流行 婦人子供服	16巻10号 (S7.10)	6.7歳向の男児用合服の仕立方	16巻9号(S7.9)	さかゑ商店 上田きよ子	⑮
		新型の12, 13歳女兒用合服の仕立方	16巻9号(S7.9)	文化裁縫女学校 中村里海	⑯
		5, 6年生女兒用の新型運動服の仕立方	16巻9号(S7.9)	文化裁縫女学校 並木伊三郎	⑰
夏の婦人子供洋服35種特価 (5月号附録発表)	17巻5号 (S8.6)	「夏の新型子供洋服の作り方」子供服の仕立方の掲載は64種あり	17巻5号(S8.5)別冊附録		⑱
		簡単な割当て法で 夏向女兒服の仕立方 「夏の新型子供洋服の作り方」より	17巻5号 (S8.6) 別冊附録	溝部洋裁女塾 溝部百合子	⑲
流行の夏の婦人子供服	18巻6号～18巻9号、(S9.6～S9.9)	「新型流行 夏の婦人子供服の作り方」子供服の仕立方の掲載は35種あり	18巻6号 (S9.6)別冊附録		⑳
一流仕立てを誇る(6月号発表)の婦人子供服	19巻7号～19巻8号、(S10.7～S10.8)	(全部実物大型紙を添へて発表)「夏の婦人子供服の作り方」子供服の仕立方の掲載は37種あり	19巻6号 (S10.6)別冊附録		㉑

仕立てるにあたって用意する布地と付属品 (各仕立方の説明より)

	用布 (鯨尺)	素材	付属品
①	7.8歳用 シャツブラウス 2尺幅3尺2寸、エプロンドレス 羅紗物(3尺6寸幅)2尺4寸	ブラウス 秋から冬の三期間は、フランシルク(生木綿のような色合の縮織の布)白のセル、フランネル、真夏は白縮織、白モス、麻など、エプロンドレス 黒か紺、軟かな地質、サージどと夏でも着られる	白のスナップ3個、黒のスナップ3個、白3分幅のゴムテープ約2尺
②	7.8歳用 ブラウス 2尺幅 4尺2寸位、ジャンパー 2尺幅 4尺5寸、ジャンパーのヨーク裏 2尺幅 7寸5分	ブラウス、薄地の白セル、ジャンパー 羅紗の本ネル(但し1年中着る場合は紺サージがよい)、ジャンパーのヨーク裏にも羅紗	ブラウス 四分丸の貝釦(飾)10個、白スナップ10組、白のバイヤステープ3尺位、ジャンパー スナップ6組
③	7.8歳用 表:紺か黒のサージ 幅3尺8寸 ヲヤール4分、裏:黒新毛 2尺幅 ヲヤール6分、芯:芯地布 2尺幅 7分、装布:天竺 2尺幅 7寸	表:紺か黒のサージ、裏:黒新毛、芯:芯地布、装布:天竺	釦 上衣の分 金釦か黒の水牛釦 (大)5個、(小)4個、ズボン釦(大)6個、(小)4個、縫糸:鎖印80番カタン黒(これが最も丈夫)、乳かがり糸 乳糸少々 他に袴ホック 一組、つりテープ 曲尺4尺
④	13歳用 上衣とスカート 羅紗巾 6尺、チョッキ 2尺幅 2尺5寸	上衣とスカート 紺サージ、チョッキ 黒毛織子	五分丸の釦8個、黒スナップ8組、鉤ホック一組、白か海老茶のジャバラブレード 1丈2尺5寸、好み色のネクタイ(着分、ネクタイは幅3寸の丈3尺位のリボンを経んでも、また織子かその他の柔らかい布を斜のネクタイ型に裁って、裁ち目を緩新にしたのをつけてもよい。
⑤	7.8歳用 紺サージ 3尺8寸幅(1m44cm) 3尺6寸(1m44cm)、裏袴やポケット用 黒新毛織子 2尺1寸幅(79.5cm) 1尺(38cm)、キヤラコ 1尺1寸(42cm)	紺サージ、裏袴やポケット用 黒新毛織子、キヤラコ	白の2分幅セーラー用テープ 1丈2尺(4m55cm)、白の縞バイヤステープ:1巻、スナップ9組、好み色のネクタイ1本(写真は黒のクレープデシ)、縫糸:80番カタン(手帳なら絹糸)、他に型紙を裁つ
⑥	7.8歳用 表:サージ 3尺7.8寸幅の黒か紺 2尺7寸(1m2cm)、上着の裏:新毛織子 1尺8寸5分幅(70cm) 3尺5寸(1m30cm半)、白ビケ:1尺6寸5分幅6寸5分(25cm)、キヤラコ:1尺8寸5分幅 6寸5分(25cm)	表:サージ、上着の裏:新毛織子、白ビケ、キヤラコ	ゴムテープ 1尺2寸、金釦 直径5.6分丸4個、4.5分丸2個、型紙を裁つ紙、縫糸、鯨尺
⑦	8.9歳用 用布:1尺9寸幅(72cm) 6尺(2m27.2cm)	細地ポプリン(洗濯のきくものならなんでも)	用布と配色のよい縮斜布 1巻、7分丸釦5個、ゴムテープ 約1尺、型紙用の紙
⑧	5.6歳用 2尺幅(76cm) 3尺5寸(1m30cm)	玉虫色のギンガム	白ゴムテープ:1尺1寸(42cm)、白スナップ 3組、縫糸 型紙を裁つ紙、鯨尺など用意
⑨	4.5歳用 2尺幅 3尺4寸(1m28.8cm)	ネル	緑:白キヤラコのバイヤステープ 4尺、紺:白テープ 1ヤール
⑩	4.5歳用 2尺幅 2尺5寸(94.7cm)	ネル(真夏ならば、タオル地が手軽にえられるながら結構です)	キヤラコの7分幅バイヤス 7尺、付紐:半寸幅の白テープか絹紐:3尺、縫糸、型紙を裁つためのハトロン紙か新聞紙
⑪	8.9歳用 布地:2尺幅 3尺7寸、縁取用白斜布を1丈2尺	縮タオル地(浴衣地その他の布地、手拭用タオルの有り合わせ物でもよい)、縁取用の白斜布(キヤラコで6.7分幅に裁ってもよい)	白の紐布:ほんの少々、縫糸、型紙用の紙
⑫	7.8歳用 2尺幅(76cm) 3尺5寸(1m32cm)	タオル地	紺:有り合わせの白布で 1寸6分幅 7寸丈を2枚、カ布:裏布などの分として キヤラコ 1尺5寸、型紙を裁つのに新聞紙かハトロン紙、縫糸
⑬	11.12歳用 履掛引きの天竺木綿 2尺6寸5分幅 4尺3寸、頭巾の裏布:毛織子かメリンス 大幅 7寸5分(並幅なら1尺5寸)	履掛引きの天竺木綿、色:男児 茶、女児 桔梗か藍縹、裏面は男女とも白がよい、頭巾の裏布:毛織子かメリンス、	スナップ:12組、鉤ホック:1組、袋の口紐:太い打紐 2尺5寸、紐通しの環 8個、型紙を裁つ紙、縫糸、履掛液少々
⑭			
⑮	6.7歳用 上着用:1尺9寸5分幅を3尺、ズボン用:3尺7寸5分幅 1尺4寸	上着用:淡黄と白の弁慶縮のセル、ズボン:紺セル	上着用:配色のよい直径4分丸の飾釦(4つ孔がよい)5個、白スナップ 5組、クロスナップ 7組、3.4分幅のゴムテープ 1尺5寸、ズボン用:3.4分幅のゴムテープ 2尺8寸、クロスナップ 1組、型紙を裁つ紙、各布地色の縫糸、尺度は鯨尺
⑯	12.13歳用 1尺9寸幅 5尺2寸、胸布:6寸幅 1尺4寸、袴:白レース 1寸4.5分幅 1尺3寸	ネルかセルの格子縞、胸布:白セルかポプリン、袴:白レース	3分丸の配色のよい飾釦 3個、白のバンド止:1個、白スナップ:1組、縫糸、型紙を裁つ紙
⑰	12.13歳用 ジャンパー型ドレス:1尺8寸5分幅 9尺8寸(約3m72cm)	淡黄色ギンガム	黒の4分丸飾釦:5個、黒新毛の6分幅バイヤス布:3尺5.6寸(黒バイヤス綿テープでもよい)
⑱	4.5歳用 模様ポイル:2尺4寸幅 型紙の前身頃丈と同寸(約1尺8寸)、白ポイル:2尺4寸幅 7寸	身頃:模様ポイル、袖割布:飾布:白ポイル	配色のよいリボン 3分幅 1尺5寸
⑳			
㉑			

表2. 16巻6号(S7.6)別冊付録「夏の子供服一切の仕立方」

仕立方の掲載は20種

	タイトル	仕立方の 頁	考案者
原型から作る子供洋服の仕立方			
	原型応用の新型女児服の仕立方	91	ドレスメーカー女学院 杉野芳子
男女児遊び着4種の仕立方	2. 3歳用女児用遊び着の仕立方	105	ドレスメーカー女学院 杉野芳子
	3. 4歳男児用遊び着の仕立方	107	ドレスメーカー女学院 杉野芳子
	5. 6歳女児用遊び着の仕立方	109	大森洋服学院 大森繁子
	4. 5歳男児用遊び着の仕立方	111	文化裁縫女学校 並木伊三郎
新型の男女用子供服の仕立方15種			
	5.6歳向女児ドレスの仕立方	114	文化裁縫女学校 中村里海
	4. 5歳用女児ドレスの仕立方	115	小幡洋服裁縫学校 小幡繁子
	2. 3歳用女児ドレスの仕立方	117	さか糸商店 岩本鏡子
	3. 4歳女児ドレスの仕立方	120	文化裁縫女学校 並木伊三郎
	4. 5歳男児用セーラーの仕立方	121	文化裁縫女学校 中村里海
	5. 6歳向女児外出着の仕立方	125	日本橋三越婦人子供洋服部 中村サエ子
	3. 4歳女児服の仕立方	127	日本橋三越婦人子供洋服部 中村サエ子
	7. 8歳女児用サンマーコートと帽子	131	文化裁縫女学校 並木伊三郎
	6. 7歳用女児服の仕立方	133	陸軍大学教授ハリス氏夫人 ハリス・ヨシノ夫人
	7. 8歳向新型男児服の仕立方	135	日本橋角西川商店婦人子供洋服部 豊生才治郎
	3. 4歳用女児ドレスの仕立方	139	メリー洋裁学院 沖たく子
	3. 4歳向新型男児服の仕立方	141	小幡洋服裁縫学校 小幡繁子
	13.14歳女児用の常着兼外出着	142	日本橋三越婦人子供洋服部 中村サエ子
	5. 6歳用男児服の仕立方	144	メリー洋裁学院 沖たく子
	3. 4歳用男児セーラー服の仕立方	147	横濱野澤厚婦人子供洋服部 溝部洋裁女塾 溝部百合子

表3. 17巻5号(S8.5)別冊付録「夏の新型子供洋服の作り方」

仕立方の掲載は64種

タイトル	仕立方の カード番号	タイトル	仕立方の カード番号	タイトル	仕立方の カード番号
11. 12歳女児用外出着	1	8. 9歳女児用外出用ドレス	11	型紙付き 8. 9歳女児外出用兼常着	20
13. 14歳女児用外出着	1	4. 5歳女児用ワンピース	12	女学生用の外出兼常着	20
11. 12歳女児用平常着	2	7. 8歳女児用ワンピース	12	7. 8歳女児外出用ドレス	21
廃物利用 8. 9歳女児服	2	3. 4歳女児外出用兼常着	13	8. 9歳女児用ワンピース	21
7. 8歳女児用ワンピース	3	6. 7歳女児外出用ドレス	13	型紙付き 4. 5歳男児用外出着兼常着	23
8. 9歳女児外出用兼常着	3	8. 9歳女児平常用ドレス	14	型紙付き 6歳女児用ワンピース	23
型紙付き 10歳前後の男児用スーツ	4	6. 7歳女児通学用ドレス	14	5. 6歳女児外出用ドレス	23
11. 12歳男児用スーツ	4	4. 5歳女児平常用ドレス	15	女学生用ワンピースドレス	23
8. 9歳女児用ワンピース	4	3. 4歳女児外出用兼常着	15	型紙付き 8. 9歳男児用スポーツ着	24
4. 5歳女児外出用兼常着	5	4. 5歳女児平常用ドレス	15	2. 3歳女児外出用ドレス	24
3. 4歳女児外出用兼常着	5	14. 15歳女児用ブラウス	16	8. 9歳男児用スーツ	24
2. 3歳女児用ワンピース	6	12. 13歳女児外出用兼常着	17	6歳女児外出用ドレス	25
型紙付き 2. 3歳男児用ロンパース	6	廃物利用の14. 15歳女児服	17	6歳女児外出用ドレス	25
6. 7歳女児外出用ドレス	6	型紙付き 3. 4歳女児服と帽子	18	4. 5歳女児外出用ドレス	26
6. 7歳女児外出用ドレス	7	8. 9歳男児用外出着兼常着	18	7. 8歳女児外出用ドレス	26
5. 6歳女児外出用兼常着	8	11. 12歳女児用ワンピース	18	型紙付き 5. 6歳女児用ワンピース	27
6. 7歳女児外出用兼常着	8	女学生用ワンピースドレス	19	7. 8歳女児用ワンピース	27
10歳前後の男児用ブラウス	9	2. 3歳女児外出用ドレス	19	6歳女児外出用ワンピース	27
13. 14歳女児外出用兼常着	9	型紙付き 11. 12歳女児外出用兼常着	19	型紙付き 13. 14歳女児外出用兼常着	27
11. 12歳女児外出用兼常着	10	10歳前後の女児用ドレス	20	10歳前後の男児用スーツ	28
8.9歳女児用ドレスと帽子	10	型紙付き 6. 7歳男児外出用兼常着	20	3. 4歳女児外出用ドレス	28
5. 6歳女児外出用ドレス	11				

表4. 18巻6号(S9.6)別冊付録「新型流行 夏の婦人子供服の作方」

子供服の仕立方の掲載は表5の型紙付きと併せて35種

番号	タイトル	仕立方の頁	考案者	
1	2, 3歳男児用ブラウスとロンパース	49	ドレスメーカー女学院	杉野芳子
2	2, 3歳用女児ドレスの仕立方	51	ドレスメーカー女学院	池田淑子
3	3, 4歳男女児用ロンパースの仕立方	53	文化裁縫女学校	二宮信子
4	可愛い3, 4歳男児服の仕立方	54	溝部洋裁学園	溝部百合子
5	3, 4歳女児外出着の仕立方	57	日本橋西川商店婦人子供洋服部	豊生才治郎
6	4, 5歳男児服の仕立方	59	文化裁縫女学校	中村里海
7	4, 5歳女児ワンピースの仕立方	61	ドレスメーカー女学院	杉野芳子
8	4, 5歳男女児用ロンパースの仕立方	62	文化裁縫女学校	武川なほ子
9	5, 6歳男児服とお帽子の仕立方	64	文化裁縫女学校	原田茂子
10	5, 6歳女児用ワンピースの仕立方	68	日本橋西川商店婦人子供洋服部	豊生才治郎
11	5, 6歳女児外出着の仕立方	71	文化裁縫女学校	増永淑子
12	6, 7歳男児服一揃の仕立方	73	ドレスメーカー女学院	杉野芳子
13	6, 7歳用女児ドレスの仕立方	76	溝部洋裁学園	溝部百合子
14	7, 8歳男児通学服の仕立方	78	文化裁縫女学校	吾妻正子
15	7, 8歳用女児ドレスの仕立方	81	文化裁縫女学校	荒海崇子
16	8, 9歳用女児ドレスの仕立方	83	小幡洋服裁縫学校	小幡繁子
17	11, 12歳女児ワンピースの仕立方	85	ドレスメーカー女学院	池田淑子
18	13, 14歳女学生服の仕立方	87	上野松坂屋婦人子供洋服部	野口恒治
26	2, 3歳女児ブルーマー附ドレスの仕立方	108	小幡洋服裁縫学校	小幡繁子
27	3, 4歳女児ワンピースの仕立方	110	溝部洋裁学園	島村兆子
28	4, 5歳女児用ドレスの仕立方	114	日本橋西川商店婦人子供洋服部	豊生才治郎
29	6, 7歳女児外出着の仕立方	116	銀座澤田洋装店	舟山貞雄
30	8, 9歳女児用ドレスの仕立方	118	上野松坂屋婦人子供洋服部	村瀬伊三郎
31	10歳前後の女児ドレスの仕立方	121	さかゑ商店	岩本錦子
32	13, 14歳用女児ワンピースの仕立方	123	上野松坂屋婦人子供洋服部	野口恒治
33	14, 15歳女学生用ドレスの仕立方	126	さかゑ商店	小川園子
36	10歳前後の男児服の仕立方	133	ドレスメーカー女学院	内田チサ子

表5. 18巻6号(S9.6)別冊付録「新型流行 夏の婦人子供服の作方」型紙付き

型紙にのみ仕立方の説明が記載されている

番号	タイトル	考案者
1	よちよち歩きの男女児用遊び着の仕立方	小幡繁子
2	4, 5歳男女児用遊び着の仕立方	村瀬伊三郎
3	4, 5歳女児用ドレスの仕立方	小村馨子
4	8, 9歳用男児服の仕立方	小北のぶ
5	10歳前後の女児用ワンピースの仕立方	中村里海
6	11, 12歳向女児用ワンピースの仕立方	野村菊次郎
7	13, 14歳女児用ワンピースの仕立方	舟山貞雄
8	14, 15歳女児用外出着の仕立方	豊生才治郎

表 6.19 巻 6 号 (S10.6) 別冊付録「夏の婦人子供服の作方」(全部実物大の型紙を添えて発表)

子供服の仕立方の掲載は37種

型紙面	タイトル	口絵 写真頁	考案者	仕立方 の頁
男女児用の可愛いロンパース五種				
1面	2, 3歳男女児用ロンパースの仕立方	27	日本橋角西川商店 婦人子供洋服部	豊生才治郎 29
1面	2, 3歳女児用ロンパースの仕立方	23	小幡洋服裁縫学校	小幡繁子 31
1面	3, 4歳男女児用ロンパースの仕立方	25	溝部洋裁学院	溝部百合子 32
1面	3, 4歳男女児用ロンパースの仕立方	34	ドレスメーカー女学院	杉野芳子 34
1面	4, 5歳女児用ロンパースの仕立方	26	溝部洋裁学院	溝部百合子 35
3, 4歳から10歳前後の男児服七種				
3面	3, 4歳用男児服一揃の仕立方	24	日本橋角西川商店 婦人子供洋服部	磯部誠之助 37
3面	5, 6歳用男児服一揃の仕立方	28	日本橋角西川商店	野村菊次郎 38
3面	5, 6歳用男児服一揃の仕立方	22	ドレスメーカー女学院	杉野芳子 41
3面	6, 7歳用男児服一揃の仕立方	8	溝部洋裁学院	溝部百合子 42
4面	7, 8歳用男児服一揃の仕立方	10	ドレスメーカー女学院	池田淑子 45
3面	7, 8歳用男児服一揃の仕立方	12		岩本錦子 46
4面	10歳前後の男児服一揃の仕立方	13	ドレスメーカー女学院	杉野芳子 48
2, 3歳から13, 14歳用女児服23種				
1面	2, 3歳女児用ドレスの仕立方	25	溝部洋裁学院	溝部百合子 50
1面	2, 3歳女児用外出着の仕立方	26	日本橋角西川商店 婦人子供服部	豊生才治郎 53
2面	3, 4歳男女児用ブルマー附ドレス	1	日本橋角西川商店	平山信之助 54
2面	3, 4歳女児用ドレスの仕立方	27	文化裁縫女学校	荒海崇子 56
1面	3, 4歳女児用外出着の仕立方	20	大森洋裁学長	大森繁子 58
2面	3, 4歳女児用外出着の仕立方	14	日本橋角西川商店 婦人子供服部	平山信之助 59
2面	4, 5歳女児用ドレスの仕立方	12	文化裁縫女学校	武川なほ子 61
2面	4, 5歳女児用ドレスの仕立方	28	溝部洋裁学院	溝部百合子 63
2面	5, 6歳女児用ドレスの仕立方	20	ドレスメーカー女学院	長谷部初子 64
4面	6, 7歳セーラー型女児服の仕立方	16		岩本錦子 66
4面	7, 8歳用女児ワンピースの仕立方	17	渡邊洋裁学院	渡邊花子 68
4面	7, 8歳セーラー型女児ドレス	16	日本橋角西川商店	伊藤明則 70
4面	8, 9歳女児ドレスの仕立方	17	日本橋角西川商店	磯部誠之助 72
4面	8, 9歳女児ドレスの仕立方	12	日本橋角西川商店	野村菊次郎 74
5面	8, 9歳女児用ワンピースの仕立方	15	メリー洋裁学院	沖度子 76
5面	9, 10歳女児用ドレスの仕立方	19	日本橋角西川商店 婦人子供服部	伊藤明則 78
5面	10歳前後用セーラー型女児ドレス	18	文化裁縫女学校	中村里海 80
5面	10歳前後女児用ワンピースの仕立方	19	日本橋角西川商店	平山信之助 82
5面	11, 12歳女児用スポーツドレス	18	ドレスメーカー女学院	杉野芳子 84
5面	11, 12歳女児用ドレスの仕立方	23	溝部洋裁学院	溝部百合子 86
5面	12, 13歳女児用ドレスの仕立方	21	ドレスメーカー女学院	杉野芳子 87
6面	13, 14歳女児用ワンピースの仕立方	21	渡邊洋裁学院	渡邊花子 90
6面	13, 14歳女児用ケープ附ドレス	11	文化裁縫女学校	野口益栄 92
女学生用の最新型ドレス6種				
6面	14, 15歳女学生用ワンピース	10	さかゑ商店	上田きよ子 94
6面	14, 15歳女学生用ワンピース	22	渡邊洋裁学院	渡邊花子 96

Ⅲ. 再現子供服

当時の子供洋服を製作面から検討するために、代理部の重要取扱品案内で販売された表1の子供服の中から、2体の子供服を記事に従ってシーティングの布で再現した。1体は『主婦之友』の昭和2年3月号に文化裁縫女学校長 並木伊三郎によって、仕立方が掲載され⁵⁾、同年4月号の代理部の重要取扱品案内で「小学生の通学服」(図3)として販売された7,8歳用の「新型の女児通学服一揃の作方」である(表1の②)(写真1)。そして、もう1体は昭和8年5月号の別冊付録「夏の新型子供洋服の作り方」の中に掲載され⁶⁾、同年5月号で「夏の婦人子供洋服35種特価」(図8)として販売された中の4,5歳用「夏向女児服の仕立方」である。著者は溝部洋裁女塾の溝部百合子である(表1の⑱)(写真4)。この当時の長さを測る単位は鯨尺の尺が多く見られ、センチやメートルも普及してきている時代であるが、ここではまだ鯨尺の尺で表現されている。

1. 新型の女児通学服

ブラウスとジャンパースカートを構成されており、記事にはブルーマーも掲載されていたが、代理部重要取扱品案内の販売では、ブルーマーがなかったので、ここでは省いている。ただし、仕立方の記事には女児が洋服をつける際には、ブルーマーを穿いておくようという説明がされている。これは洋服を着る際の当時の女児の嗜みであった。

記事の中の「型紙の裁方」(図4)から実際に作図をし、製作を経てわかったことは、ブラウスは和服の直線裁ちとは違い、肩に傾斜があり、衿ぐりや袖ぐりが体に沿うように曲線で



図3. 小学生の通学服
「主婦之友代理部の重要取扱品案内」にて販売
11巻4号(昭和2年4月)

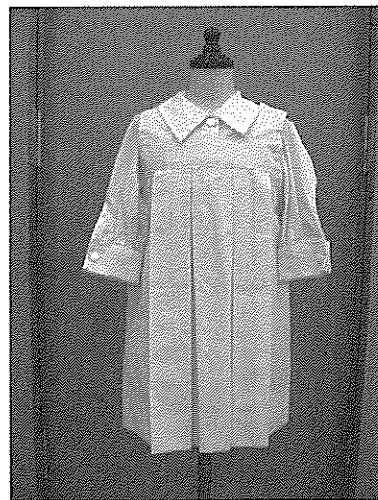


写真1. 再現子供服
「新型の女児通学服一揃の作方」
11巻3号(昭和2年3月)より

描かれている。袖や衿も曲線で描かれているが、身頃の袖ぐりや衿ぐりの寸法を測った上で作図をしていないせいか、身頃と縫いあわせる際に寸法があわず、ギャザーやタックという技法を用いて寸法を無理に合わせてつけることになった。この作図の考案者である並木伊三郎は大正15年に「婦人子供服の原型」の作図方法を主婦之友の誌上で発表しているが、読者に原型の書き方を理解させるのは難しかったようである。ここでは、決められた寸法で線を書いて作図を行うという、わかりやすい囲み製図の方法で型紙を作成している。ジャンパースカートの、ヨークの部分は型紙を作っているが、スカート部分は型紙を作らずに布地に直接標を入れて裁断するように指示されている。

縫い代の付け方については、ブラウスの身頃の衿ぐりと袖ぐり、衿の衿付け部分には縫い代をつけず、そのほかの部分には型紙の外に縫い代をつけるように指示がある（図5）。縫い方については、前の打ち合わせ部分のボタンは飾り釦で、ボタンホールはなく、10個のスナップで着脱できるようになっている（写真2）。袖口にはカフスがついており、ワイシャツのカフスと同じつけかたとの指示があり、内側にスナップをつけた形になっている（図6）。衿ぐりや袖ぐりの縫い代は、2.5cmほどの斜布でくるんで始末をしている。

スカートの部分は布地が縞柄である場合は、柄あわせを考えながら、接布と縫い合わせ、やはり柄あわせを考えながら襷をとるように指示されている（図7）。ここでは、記事にあった通りの寸法で接布と縫い合わせ、襷をとっている。

通学服一揃えの着装方法についてはブラウスをジャンパースカートの下に入れて着装する場合が一般的であるが（写真1）、ブラウスをジャンパースカートの上にしてオーバーブラウスとして着装（写真3）してもよいという説明もされている。

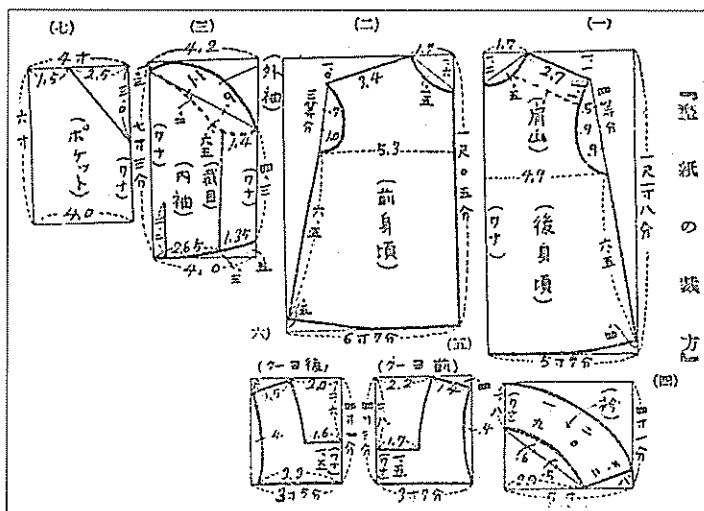


図4. 「新型の女児通学服一揃えの作方」型紙の裁方
11巻3号（昭和2年3月）

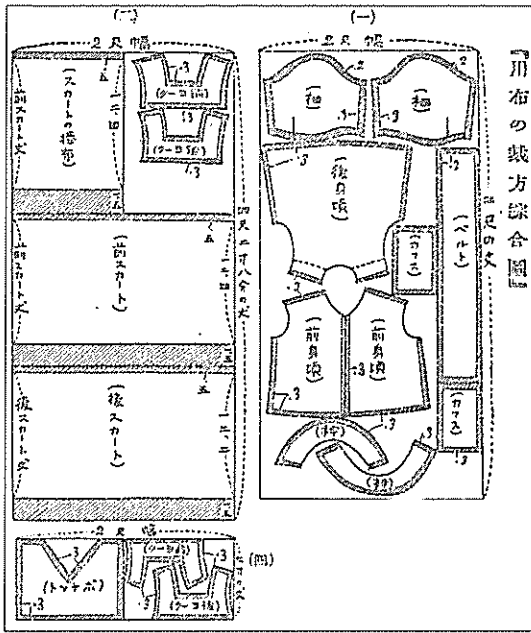


図5. 用布の裁方総合図

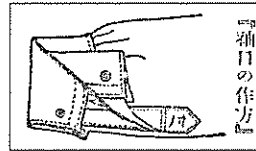


図6. 袖口の作り方

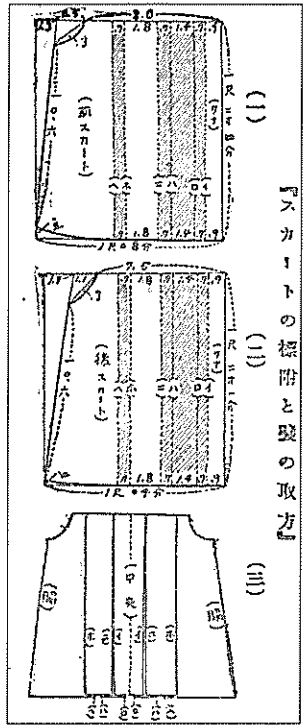


図7. スカーットの標付けと襷の取方



写真2. 再現子供服
前身頃の打合せ部分

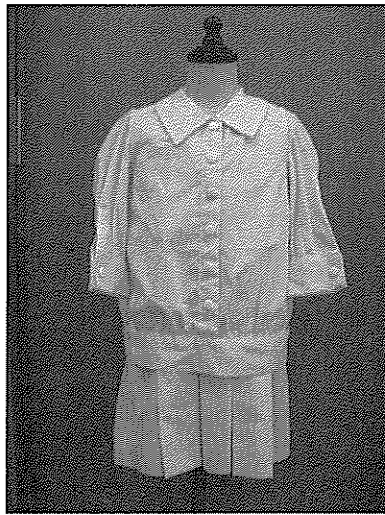


写真3. 再現子供服
ブラウスを上にして
オーバーブラウスとして着装

2. 夏向女兒服

昭和8年5月号の別冊付録「夏の新型子供服の作り方」の中に掲載されていた4,5歳用の「夏向女兒服の仕立方」は、昭和8年6月号の主婦之友社代理部案内で販売されている。この作品は本誌ではなく、別冊付録の「夏の新型子供洋服の作り方」に掲載されていた子供服である(図9)。仕立方の説明は記者が著者に洋服の作り方を教えてもらいながら製作していくという会話形式での記事となっている。著者は裁断の際は、縫い代を全部つけた割り出し法の作図である(図10)から型紙を作らずに用布をすぐ裁つように指示しているが、記者は用布を裁ち損じては大変なので、最初は型紙を作らせてほしいと頼み、作図を行っている。型紙作りは、年齢によって標準寸法が決められており、そこから割り出して作成するようになっている。ワンピース型で袖ぐりと前後身頃の中心、両脇に飾り布がつき、縫い代は型紙の中に含まれている(図11)。衿ぐりは標準寸法になるように、巻き尺の側面をたてにあてて、測りながら、恰好良くカーブ線を描いていくよう指示があるが、記者はこの時、その「恰好よく」が素人にはむづかしいと述べており、洋服作りの初心者が型紙を作る難しさを表している。衿や袖にギャザーはあるが、身頃の寸法を測った上で、衿や袖の作図をしているので、つけるときに無理なくつけることができた。着脱の際に必要な明きは、後ろ中心で背明きとしてとり、スナップ止めになっている。衿ぐりの縫い代の始末は斜布を利用し、袖ぐりの縫



図8. 夏の婦人子供洋服35種特價

「主婦之友社代理部案内」にて販売
17巻6号(昭和8年6月)

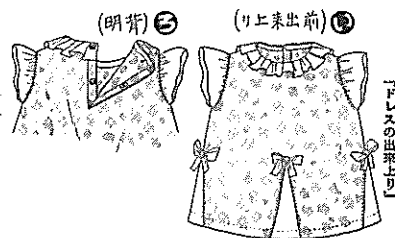


図9. 夏向き女兒服の出来上り図
「簡単な割出し法で夏向女兒服の仕立方」
17巻5号(昭和8年5月)
第二附録「夏の新型子供洋服の作り方」

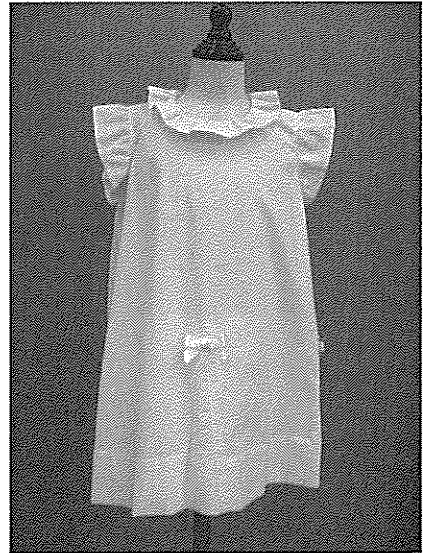


写真4. 再現子供服
「簡単な割出し法で夏向女兒服の仕立方」
17巻5号(昭和8年5月)
第二附録「夏の新型子供洋服の作り方」より

い代は斜布をつけずに袖ぐり側に倒して、飾りミシンで押さえるように指示されている。

この夏向女兒服は、前中心、両脇、後中心の裾部分に三角形の飾布がはめ込まれ（写真5）、頂点にリボンが飾り付けられている。そして、ギャザーをよせた短いフリルの袖や衿がついている。シンプルな形の中にもデザイン性のある活動しやすい子供服になっている。

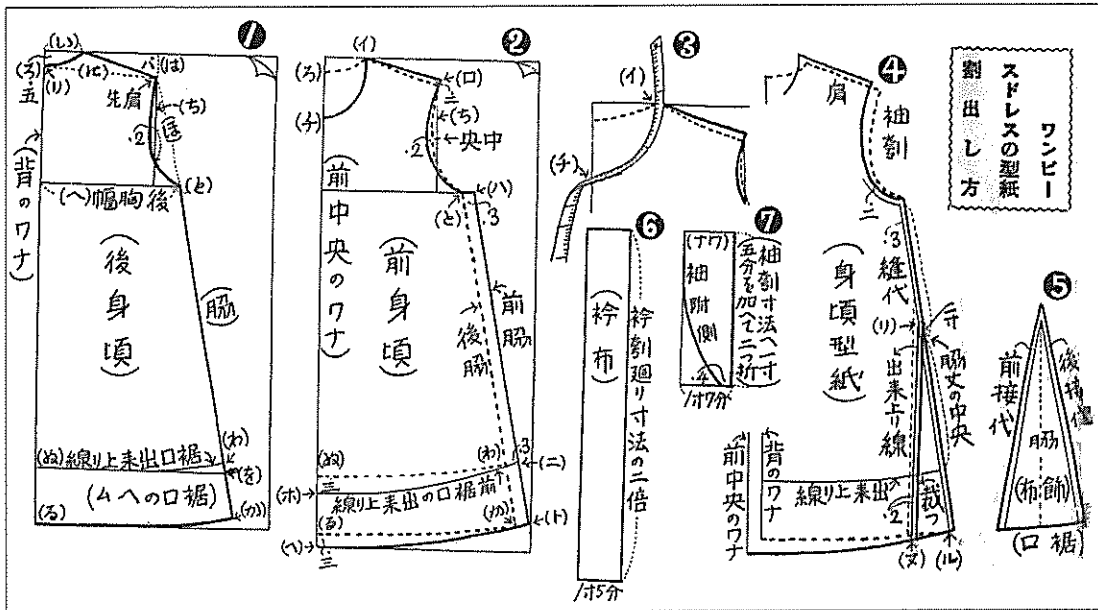


図10. 型紙の割出し方

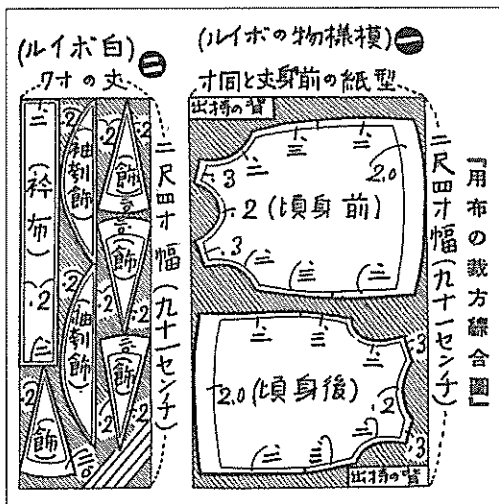


図11. 用布の裁方総合図

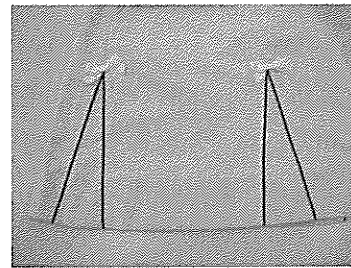


写真5. 裾部分の飾り布

IV. 子供の洋服についての座談会

洋服の便利さは次第に認識され、大正12年に起こった関東大震災をきっかけとして、子供服を中心に洋装は急速に広まって行く。しかしながら成人した女性はほとんどが和服または和・洋の二重生活であった。子供に対しては、簡単で、運動がしやすく、汚れても洗濯が容易な洋服を着せようとする動きが活発になり、『主婦之友』でも子供の洋服についての座談会が行われている。

昭和4年7月号では、「子供洋服時代」⁷⁾の記事として子供服に対する考え方が変わってきている様子を次のように述べている。

10年前は、子供のために、洋服が1番似つかわしく経済的で、第一衛生的でもあると、誌上から如何に骨折ってお勧めしたか知れない。それでも耳を傾けてくれるのはほんの一部の方だけで、一般はなかなか附いてきてくれませんでした。それが、今日では、子供洋服の全盛となり。夏などはどんな辺鄙にでも、可愛らしい洋服姿の子供を見かけます。隔世の感というのはこのことでしょう。同じ洋服を着る欧米人でも、その国々によって多少風が違ふ。日本人の洋服姿もまた日本風で合つてよいわけです。強いて欧米人の真似をしなくても着ているうちにだんだん着こなしが上手になっていく。5年前と今日との相違を見ても、うなづける筈ではないでしょうか。型がそうであるように、生地なども日本の気候や風習を参照し、経済状態をも考えたものが、だんだん現れてこなくてはならぬ。中型浴衣地の子供服など、たしかに日本のものということができます。本誌が初めて浴衣地で子供服の仕立方を発表した当時のことを思うと、こんどの「夏の子供洋服号」までの進歩の著しさに驚かすにはおられない。今まで多少のお役に立ってきたように、これからさきも此の方面のお役に立たせて頂きたいものであります。

このように10年前よりも特に夏に洋服を着る子供を多くみかけるようになり、布地には、日本の気候や風習を考え、経済状況も考えて浴衣地を使用していたようである。この昭和4年7月号は「夏の子供洋服号」というタイトルがつけられており、同年5月に帝国ホテルで開催された「子供洋服について お母様の座談会」⁸⁾の記録が掲載されている。

出席者は、

早大教授帆足理一郎氏夫人	帆足みゆき
商大教授ガントレット氏夫人	ガントレット恒子
帝展審査員田邊氏夫人	田邊操
白木屋子供洋服部	中川原花子
朝日新聞論説委員前田多門氏夫人	前田房子

である。洋服ばかりで育て、自分で子供服を仕立てている母親に集まって貰っている。座談会の趣旨は、子供服についてのいろいろな問題を、経験上から話し合ってもらおうということで、「和服と比較して」「初めて洋服にした頃」「子供服の用布には」「子供らしい型に」「小さくなった服の繰廻し」「高い靴と大きい帽子」「夏冬の下着と靴下吊り」「応用を上手に」をテーマにして話し合っている。洋服の長所については、身体を束縛されないで自由にのびのびと動けること。洗濯が容易で、和服と違い縫い返しの手数がないので手が省けることなどが良い。生地については、夏物はギンガムや縮などの木綿や、柄によっては浴衣地などがよく、冬着にはネルがしなやかで丈夫で洗濯が容易で色合せや柄に良いと述べている。

昭和7年6月号には同年4月に濱のやにて開催された「お母様方のために 子供洋服に就いての座談会」⁹⁾の記録が掲載されている。

出席者は、

陸軍大学教官ハリス氏夫人	ハリス・ヨシノ
ドクトル笠井誠蔵氏夫人	笠井カタリナ
東京女子高等師範学校教授	成田順子
文化裁縫女学校長	並木伊三郎
大森洋裁学院長	大森繁子
ドレス・メーカー洋裁学院長	杉野芳子

である。座談会の趣旨は夏の子供洋服ということで経済的、体育上、スタイルの上から「子供は洋服に限る」「日本の子供服は贅沢」「子供服は色と形」「洋服とエプロン」「上手な廃物利用」「女学生に洋裁の趣味を」「子供に適したスタイル」「洗濯の立場から」「帽子との調和」「外出着に就いて」「是非ブルーマーを」「小さくなった服の繰り回し」「子供の靴は」などをテーマにして話し合っている。その中で子供服としては、贅沢なものを着過ぎているので、あまり汚れを心配しないものを着せた方がよく、何度も洗濯のきく木綿のものを選ぶとよい。日本の子供服は飾りが多すぎるので、なるべく飾りのない簡単に出来たものがよいとしている。型紙については、『主婦之友』では実物大の型紙を添えているが、その効果はどんなものかという記者の質問に対し、出席者達は素人には裁断が一番難しいので型紙があるのはよいことであるとか、地方では雑誌が頼りだから型紙を重宝するだろう。少し洋裁がわかってくると一つの型紙でいろいろにまた工夫が出来る。などと述べている。しかし、洋服はまだまだ金持ちが着るという考え方があり、小さい子に洋服を拵えてやろうと考えていても、金持ちの子なので洋服を着ると言われるからいらないと断られている実体も述べられている。

V. まとめ

『主婦之友』では大正15年に「婦人子供服の原型」の作図方法を並木伊三郎によって行ったが、実際には仕立方に原型を使用している場合は少なく、決められた寸法で作図する囲み製図の記載が多い。これは、読者に原型を理解させることが難しく、少しでも簡単に出来る作図方法をとったためと考えられる。昭和6年6月号から付録に実物大の型紙がつくようになるが、これは型紙作りを省くことによって、作図の苦手な人でも洋服作りができるように、考案されたものと考えられる。

布地を裁断する際には、型紙を使用するようになってきているが、再現した「女兒通学服」のスカートのように直接布に標を入れて裁断している場合もある。縫い代については、型紙に含まれている場合と含まれていない場合、「女兒通学服」のように、衿ぐり、袖ぐり、衿付けといった一部に縫い代を含まないで裁断をする場合がある。

昭和6年以降付録がつくようになり、昭和7年からは毎年5月か6月に子供服の仕立て方の付録が別冊でつくようになる。これは、暑い夏には袖や丈の短い夏用の洋服を着せるように勧め、また実際に着ていたと考えられる。

昭和に入ってから代理部では、ミシンや布、針、糸、ルレットなどの洋裁道具も販売されるようになり、読者で洋服を作る人が増えてきている様子が窺われる。記事や付録にも、洋服作りに必要な知識や技術の説明が詳しく掲載されるようになる。採寸方法や標準寸法の取り方、必要な「基礎縫いの説明」や「布の地伸しの仕方」なども説明されている。また、洋服のカラーイラストや写真も多く載せられるようになる。手作りで服を作っていた時代に、洋服の仕立方や必要な知識の記事を掲載したり、洋裁指導者等による座談会を開き、問題点やこれからの洋服について話し合い、洋服を広めた婦人雑誌の役割は大きかったと考える。

この後、戦時色が濃くなり、物資が不足して服装が制約される時代になっていくが、昭和10年までの昭和初期の間は、洋裁文化を築いていく指導者たちによって、洗練されたデザインが考案され、洋服作りに必要な知識と技術の指導が行われ、子供服の洋装化は進んでいった。

謝辞

最後に、本研究を進めるにあたり貴重な資料をお貸しくくださったケンショク「食」資料室の皆様へ感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 村田裕子「大正期における洋装子供服について—雑誌『主婦之友』より—」
大谷女子短期大学紀要第48号 2004年
- 2) 主婦之友社『主婦之友』昭和2年1月号（11巻1号）～昭和10年12月号（19巻10号）1927～1935年
- 3) 主婦之友社『主婦の友社の50年』pp.63～64 主婦の友社 1967年
- 4) 前掲『主婦の友社の50年』pp.551～552
- 5) 並木伊三郎「校服として最も理想的な 新型の女児通学服—揃の作方」
『主婦之友 昭和2年3月号』pp.229～234 1927年
- 6) 溝部百合子「新型女児服の割出しと仕立方」 『主婦之友 昭和8年5月号』
別冊付録「夏の新型子供洋服の作方」カード番号30 1933年
- 7) 主婦之友社「子供洋服時代」 『主婦之友 昭和4年7月号』p.1 1929年
- 8) 主婦之友社「子供洋服について お母様の座談会」
『主婦之友 昭和4年7月号』pp.74～83 1929年
- 9) 主婦之友社「お母様方のために 子供洋服に就いての座談会」
『主婦之友 昭和7年6月号』pp.440～457 1932年
 - ・奥村萬亀子「きもの改良の試みをたどって」
京都府立大学生活文化センター年報8号 1983年
 - ・洋服業界記者クラブ『日本洋服史—世紀の歩みと未来展望』日本洋服史刊行委員会 1977年
 - ・中山千代『日本婦人洋装史』吉川弘文館 1987年
 - ・藤村代利子・大下由比子「子供服の研究—子供洋服のデザインと洋装化について—」
山口芸術短期大学研究紀要第13巻 1981年

